

第6期奥多摩町長期総合計画策定に係る意見募集内容一覧

No.	回答方法	住所	年代	区分	<p style="text-align: center;">第6期奥多摩町長期総合計画に関するご意見 ※ご意見の内容については原文のまま掲載しています。 ※氏名等の個人情報についてはマスキングしています。</p>
1	フォーム	青梅市	50代	関係人口	<p>1.活気のある町づくりを目指して欲しい。人に優しく、気遣いの気持ちが欠如している昨今、心にゆとりを持てる環境が必要だと考えます。その為には、単に住民へのサービスばかりに目を向けるのではなく、町の経済環境へのテコ入れも重要な指針の一つと位置づけて欲しい。町の財政に実入り（収入）がなければ、必要な政策も中途半端な物となります。元気な企業が町を活性化させる礎になるなら、好循環が生まれ雇用の確保や住民の安心に繋がると考えます。</p> <p>2.森林の保護等について 自然の保全・保護は大切な事は、十分に判った上で意見します。陽の当たらない土地には、長く住んで居られない…これが本音です。高度成長期に植えた杉、ヒノキ等が限界を超えるスピードで育ち手入れなく山を形成してます。以前は、陽の当たる場所だった土地も冬の時期に陽のあたらない地域を増やし、それに比例して空き家が目立つ…。これは何を意味するか？育った場所（環境）が良ければ、次を担う世代が世襲を考え、住み続ける事もあるかもしれません。しかし現状は違う。持論ですが、「陽の当たる町条例」を作ってはどうかと思ってます。自然の保全は各地域毎に計画し、その中で行えば可能な事の用に思います。若者定住化を推進する町であるならば、生まれ育った若者も定住してもらう意味でも重要な事だと認識していただきたい。</p> <p>3.自治会等の活動について 少子高齢化と言われてから長い月日が経ち、町の様子はどうか？コミュニティの代表格である自治会は、なくてはならない存在なはず。地域の見守り機能や繋がり意識を大切に組織されてきた。ただ一方で高齢化が進む中、残念ながら一人世帯が増え、自治会の活動にも参加がままならない人も増えている。回覧を廻すのも無理な人もいる。昨今、動ける人、活動できる人の負担が日に日に強まる傾向にあり、このままでは成り立たなくなるのではと危惧してます。自治会組織の存続は必要であると感じる一方で、時代にあった関わり方や負担だと感じる事のないような取り組み方法を模索する時に来ているように感じる。町にある諸団体による活動もしかり、より良い変化を求めていく時にあるのではと思います。具体的には、国の勤めるデジタル化などを取り入れ相互にコミュニティが成り立つような形を模索してはいかがでしょうか。</p> <p>4.医療環境の充実 医療においては、やはり弱いなと思います。専門性の高い分野や高度な治療を求めるのは難しいとは思いますが。小児医療などは特に必要性を感じる方が多いので、安心して暮らすピースの一つとして考えて欲しいと思います。</p> <p>5.移動手段の確保 誰もが気軽に使える公共交通手段が不足しているように思える。社協や病院等の送迎は利便性があり利用者には有り難く受け止められていると思います。しかし、日常生活における移動弱者はいます。予算等の関係もあるとは思いますが、他市町村で運行しているようなコミュニティバスを走らせるなどの対策も必要かと思えます。</p> <p>※多種多様な価値観が存在、尊重される時代です。人それぞれが生活していく上で感じる事は多岐多様になりますが、奥多摩に生まれて育った環境に誇りが持てる町にして欲しいと思います。</p>
2	フォーム	福生市	50代	関係人口	<p>6年度行われる郷土芸能祭は、主に町内在住者を対象にしたものと思います。</p> <p>次期長計では、今年度行われる芸能祭の実績、反省事項を踏まえ町外への奥多摩郷土芸能の広報活動及び奥多摩郷土芸能祭の開催推進を計画</p>

No.	回答方法	住所	年代	区分	<p style="text-align: center;">第6期奥多摩町長期総合計画に関するご意見 ※ご意見の内容については原文のまま掲載しています。 ※氏名等の個人情報についてはマスクングしています。</p>
3	フォーム	町内	30代	住民	<p>昨年4月に奥多摩へ移住してきた■■■と申します。6点、これからのまちづくりについてご意見をお送りさせていただきます。</p> <p>①アンケート調査結果について若年層の意見も丁寧に扱ってほしい 資料「情報発信 No.1」の「(3) 各設問に対する回答」で「高齢者が生きがいをもって暮らせる地域づくり」や「福祉や医療サービスが充実し、お年寄りや障がいを持つ人が大切にされるまち」が重要対策・望ましい町の姿として挙げられていますが、今回の調査回答者の半数以上(54.3%)は高齢者からの回答です。また、そもそも調査票配布数も60代以上で半数を超えています。調査対象者の年齢に偏りがあることからしても、これらの回答が多くなるのは当たり前だと思いました。おそらく、町内の年齢人口比で調査対象者を抽出したために、このような偏りがあるのかと思いますが、であれば世代別のクロス集計結果も報告書に掲載しなければ、若年層の意見は見えてきづらいと思います。以上のことから、今回のアンケート調査結果の概要を見て「若年層の意見に重きをおく気のない調査だったのかな？」という感想を持ちました。若年層はたしかに少ないですが、重要対策・望ましい町の姿などについては、次代を担う世代が何を求めているのか等も丁寧に分析して計画反映していただきたいです。</p> <p>②単身世帯の移住受け皿を整備してほしい 私たちは昨年、夫婦で町営若者住宅に移住をさせていただきました。安価で住みやすい家を貸与いただき、大変ありがたく思っています。一方で、「奥多摩移住に興味ある」と単身の方から話を受けることがたびたびありましたが、「町営若者住宅は基本的に夫婦や子育て世帯を対象としているから…」と、後ろ向きなことしか伝えることができませんでした。国内全体の流れとして、生涯未婚率は高くなり、晩婚化や少子化も進んでいます。こうした中で町の移住施策も、時代に即して修正していく必要があるのではないのでしょうか。また、これは私の主観ですが、子育て世帯の方は扶養義務もあるため会社や組織に勤める方が多く、単身世帯の方は事業を興してみようという方やフリーでクリエイティブなことをしたいと挑戦心に満ちた方も多印象を受けます。町の活性化のためにはこうした方々の更なる移住促進も必要ではないのでしょうか。</p> <p>③奥多摩駅国道沿いのにぎわいをちょっとした工夫で創出できないか 関係人口の方に「奥多摩偽観光協会」という名称で活動している方々がいらっしゃいます。2024年3月17日の日曜日に、この方々が「氷川エリアの商店に全部入る」といった企画を実施し、その報告をネットラジオで紹介されていました。内容はとてもおもしろいものだったのですが、個人的に衝撃だったのは、国道沿いの商店の約8割が休業日だったというお話でした。観光立町を標榜しておきながら、観光客が多い春先の日曜日にこれで良いのかと、地元住民として情けない気持ちになりました。シャッター街の問題としては、商店・住居が同一物件等の場合もあるでしょうし、簡単に解決することはできないと思っています。それでも、例えばシャッターに絵を描くことで通りに華やかさを演出する、通り沿いに地域の子供が描いた絵などを張り出すことで通行人に楽しんでもらう、露店を出す、などなど。工夫次第で今より少しでも歩いて楽しいようににぎわいを生み出せないものではないでしょうか。</p> <p>④アート等を活用してポイ捨て問題等の課題解決ができないか 中野区では「ミューラルプロジェクト」と称して壁面にアートを描く取組を進めています。この事業の狙いのひとつに、壁面にアート作品があることで落書きが減るという効果があるそうです。奥多摩町でたびたび取り上げられるポイ捨て問題についても、同じような考え方で課題解決を目指したチャレンジをしてみたいかがでしょうか。そもそもポイ捨てをしないでくれというのが本音ですが、アートなどを切り口にポイ捨てをされないさせないまちづくりというの、挑戦する価値があるもののように感じます。</p> <p>⑤人に焦点をあてた観光をもっと推進してもよいと思う よく奥多摩に出入りする町外住民の話を見ると、「お店の人に会いに行く」という意見が多いように感じます。「店主さんの人柄に惹かれて」というケースが多いようです。そう考えると、もっと町内の人間に焦点を当てた観光PRをしてもよいのではないのでしょうか。「この人に会いたい!」「話してみたい!」と思ってもらえたら、更なる観光促進につながると思います。お隣の丹波山村も、こうした観光に舵取りをしたと記事が以前にあがっていました。(とりあえず、町の公式SNS等をつくって観光情報の発信などから取り組んでいただきたいです)</p> <p>⑥新しく具体的な魅力を増やしましょう 5期のキャッチコピーは「人森林(もり)清流おくたま魅力発信」でしたが、人森林清流のいずれも、近隣の小菅や丹波山、檜原にもあるものです。今後も観光地・移住地として選ばれていくためには、「奥多摩といえば●●」という具体的な魅力を増やす必要があるのではと感じています。今回のまちづくりアンケートの「問13 奥多摩町と聞いて、あなたがイメージするものは何ですか」では「わさび」だけ解像度が高くキーワードとして挙げられましたが、ほかは「自然」「山」「川」など、とても抽象度が高いものとなっていました。自然の中には野鳥、花、山、シダ、コケ、魚、蝶、山菜など、「わさび」に負けず劣らず素晴らしい魅力がたくさんあると思いますし、1つ1つが際立つことで奥多摩に関心を持つ人も増えるのではないのでしょうか。「わさび」という既に定着した町のアイデンティティも大切にしながら、新しく具体的な魅力をみんなで考える、そんな取組が必要だと感じます。</p>
4	フォーム	大田区	30代	関係人口	<p>豊かな自然を保全していくという前提において、奥多摩町には、移住者含めいろいろな方のチャレンジを受け入れていく、そういう大きな器であってほしいと考えます。お店を開くなどとどまらず、大学などの研究機関に場所を開放するとか、広く公的な貢献にかかわる活動の招致・受け入れられる体制や環境の整備が、ひいては豊かな街へとつながっていくと考えます。</p>

No.	回答方法	住所	年代	区分	<p style="text-align: center;">第6期奥多摩町長期総合計画に関するご意見 ※ご意見の内容については原文のまま掲載しています。 ※氏名等の個人情報についてはマスキングしています。</p>
5	フォーム	練馬区	40代	関係人口	<p>・いつもステキな大自然を感じさせて頂きありがとうございます。微力ですが、奥多摩町に関わらせて頂き感じとった事を長期総合計画に関して意見を書かせて頂きます。人口減少における各種サービス（交通インフラの整備、観光客への対応、住まい、雇用、空き店舗）継続困難になって来ていると思います。それは、自身の奥多摩町に関わっていても肌身で感じます。実際にJRの奥多摩直通電車の廃止、ゴミのポイ捨て啓蒙活動の露出低下、空き家・空き店舗の増加、雇用のマッチングがうまくいかない、といった事です。テーマとして町民と協創とありますが、はたから見た感じでは、非常に全ての点でバラバラ感があり、連帯感を感じないです。（JR・西東京バス・観光協会・森林セラピー・山のふるさと村・商店街等・自治体）先日3/2行われた山の日イベントも、主体者は東京都・林野庁等の団体がメインで主催しているが、イベントのスタッフは全く山の事、奥多摩の事を知らない派遣会社（イベント会社）が当日運営をしており、一部ビジターセンター等（自然教育研究センター）が手伝っていたものの、奥多摩町の関わり等が見受けられなかった事が残念でした。その日にもっと町を上げ、関わりが出来れば、面白い事が出来たと思います。（奥多摩町宝探しイベントスタンプラリー（福祉会館とかではなく、奥多摩全体を使った、JR駅前広場で、奥多摩地場産商品のグッズ販売、登山、カヤック等のアクティビティ紹介、居酒屋巡りツアー、）等。町民（商店、各種事業者、外部ボランティアも含み）関わり方を考えて欲しい。そこで私の意見では</p> <p>①町として、大規模イベントがある時は、事前に商店・各事業者・ボランティアが出展・協力出来るスキームを作る（出展募集要項・ボランティア協力活動等）</p> <p>②町はJRと協議し、駅前広場の円滑な使用を可能とする（例：青空市場・キッチンカーイベント・町民フリーマーケット・クラフトビール地酒イベント・木工品販売等）</p> <p>③ ②のような小さなイベントを決まった日（例：毎月1～2回）を継続して行い、大きなイベント（山の日、花火、ふるさと祭り等）へ集客を繋げる</p> <p>④町としては、今後観光に対して積極的に町民の理解を進める。（参加・協力をお願い⇒観光で雇用等を見出さないと、公共サービスの低下を招く事態になると理解して貰う）</p> <p>⑤公共移動サービス（電車・バス等）のサービス低下により、観光客の移動手段の確保（現状の補助金ではバス路線も維持が厳しくなり、JRもダイヤを減少に向かっている為、これ以上民間企業にはサービス向上は不可能）（よって最終手段は観光客の自家用車移動がメインにならざるを得ない為、早急な駐車場の整備が必要）（例：氷川小学校の土日を駐車場として開放等）</p> <p>⑥空き店舗（シャッター街になり、寂れすぎ）の有効活用（買取は厳しいとしても、シャッターにポスター・のぼり、提灯等を施し、見てくれだけでも華やかにする）（そのポスター等のデザインを広く募集する）</p> <p>⑦近くで比較的自然を感じられる事が出来る様に愛宕山周辺を整備する（登計園地ふれあい広場の整備、登計セラピー基地ステーションの有料貸し出し等）（花火も行われる為、愛宕山・氷川渓谷・登計セラピー・を整備し、日帰り観光客向けの一大自然スポットを作る）</p> <p>⑧森林セラピーガイドツアーの拡充（町として補助金を出しているのに、イベントが少なく（同日に他ガイドイベントが無い）キャンセル待ちが出ているのは勿体ない）（需要があるのに供給が追いついていない）</p> <p>以上が私が考えている事です。前段でも記述した通り、これからは人口減少は避けられないです。それにより、公共サービスは低下する事も避けられません。厳しいですが、稼ぐ力がないといつまでたっても変化出来ません。既にご承知とは思いますが、公共サービスの低下（利便性の悪化）は町から若者が出て行きます。町から若い力が無くなれば、高齢者のみとなり、町の財源とは圧迫し、観光客も魅力が無くなり、他の地域に行ってしまいます。（既に傾向は見られており、秩父や丹波山へ逃げています）（秩父市・横瀬市は町が積極的に若者起業を促しており、また西武鉄道との協力関係が功を奏しています）奥多摩町は自然・人に非常に恵まれている所だと思います。登山者にとっては奥多摩は玄関口なのです（高尾山は登山とは、、、）コンパクトなので、意見集約し易いはずですが、なぜそれが出来ていないのは、村っけが大きな障害となっているのが分かります。まずは、早急に他の方々のアンケートでも色々と記述されている事を、整理し、出来ることから小さくやる、そして継続する、その反省し、次回に生かす。この繰り返しをする事に尽きると思います。（既に他地域に遅れを取っている状況）人員が足りなければ、ボランティアを募る。少なくとも、スーパー小川屋さん清掃（フードコート）では20人程度は集まったのですから、その他イベントでもボランティアは集まると思います。（奥多摩は公の広報が下手すぎる）（町HPも非常にわかりづらい）（観光協会も面白くない）（駅前観光協会暗すぎる・中に入りづらい）奇抜なアイデアで観光客誘致をしないと、他地域に負けている。（高尾：おしゃれな若者～お年寄りまで楽しめる）（秩父：若い女子・神社仏閣好き・鉄道好きが集まる）（丹波山：ジビエ・釣り等狩猟をメインに）（奥多摩は????：メインターゲットがよく判ってないな為、バラバラに、、、）長々と失礼しました。大好きな奥多摩の為、色々失礼なことも記述したと思いますが、やはり大好きな場所なので、想いも強くなってしまいました。いち外部の意見ですが、参考にして頂ければ幸いです。また不明な点がございましたらご連絡頂いても構いません。これからも、ステキな町作りに期待しております。</p>

No.	回答方法	住所	年代	区分	第6期奥多摩町長期総合計画に関するご意見 ※ご意見の内容については原文のまま掲載しています。 ※氏名等の個人情報についてはマスキングしています。
6	持参	福生市	60代	関係人口	「生涯安心して暮らせる制度の推進について」 ・山にかこまれた暮らしは不便なことも多く、その環境が住民健康づくりや介護予防につながっていると感じています。（からだをご不自由でもがんばっている方が多い） ・年をとったら、病気になったら、災害になったらと事前にご家庭で考えられている住民が多いと思います。 次期計画に向けて ・身体が不自由になった時、食事、入浴、サービスと住宅改造については町独自の手厚い対応があると良いと思います。 ・親の介護のために通ってきたり、町にひっこしてくる家族の支援があるといいと思います。 ・今ある施設の本来の役割に+（プラス）してサービスを充実させていくといいと思います。
7	フォーム	武蔵野市	30代	関係人口	時折、奥多摩町に訪れると良い場所だなと思います。いきなり定住というのは難しいかもしれませんが、時折やってくる「ファン」のような人をつくり、そしてそういう人たちが情報発信してくださると新鮮に感じられる気がして、 関係人口の人たちが定住と観光をつないでいくと、住んでみたいという人も増えていくのではないのでしょうか。都市部にはない、お店があったりすると魅力的に思えます。（私がよく下山後とかに個人でやっているようなお店で買い物をするので） 若い世代のお店を出してみたいという方への、お店のオープン支援とかどうでしょうか。移住するにしても、どんなに自然があり食べ物が美味しくても、仕事がなければ住むことができないので、創業支援とかあると良いなと思います。
8	フォーム	宮城県蔵王町	40代	関係人口	町の方から定期的に住民や地域愛好家も交えた意見交換会を実施するなど、積極的に要望を聞く姿勢を示してほしい。
9	フォーム	世田谷区	50代	関係人口	奥多摩駅周辺に駐車場を増やしてほしい
10	フォーム	町内	40代	住民	「重層的支援体制整備事業」について、国は令和3年に施行し、都は令和5年度、都の地域福祉支援計画の中間の見直しを行い、都全体で当該事業を推進するとした。（令和6年度には都内23区市が実施） 町では、令和5年度改定の地域高齢者支援（介護保険事業）計画、障害福祉等計画において、当該事業に取り組むとしたことから、町の最上位計画である長期総合計画においても、「重層的支援体制整備事業」の実施及び推進を盛り込み、「成年後見推進機関設置」のように他の区市町村に遅れることなく、当町の高齢化率を鑑みれば、率先して財源を確保し、取り組むべき事業であると考えます。
11	フォーム	町内	40代	住民	①健康・福祉 高齢の両親を含め、今のところ特に不満はない。小児科、耳鼻科があればなおいい。 ②生活・環境 特定の方の身勝手な行動が目や耳に入ってくるが、個人的にはまだ影響がないので不満はない。不満がない分、トイレ掃除にかかる費用が高く感じる。コンペをすれば、同等のクオリティで今より費用のかからない会社が見つかるのでは？とも思う。 ③教育・文化 移住して、一番困っている。林業を目的とした森林整備ではなく、生活レベルの森林(環境)整備をする方が減ったせいかな、私が子供だった頃に比べても「大自然すぎる」。意外と子供が遊べる場所がない。④の観光・産業にもつながるが、自然を生かした小田原にある「わんぱくらんど」規模の遊ぶ場所が欲しい。 https://odawara-jigyo-kyokai.jp/wanpaku/wanpakuland ④観光・産業 上記のような規模の遊び場があると、運営管理などの雇用が生まれるほか、府中周辺から甲府周辺ほどのファミリー層の来町が見込め、周辺の飲食業も潤うのではないかな。(根拠はなし)また、都内まで2時間余りの立地であることから、企業の本社が奥多摩に移転し社員が移住すれば、飲食業としては嬉しい。 ⑤行財政 定住してもらうためにも、移住と雇用がセットのパターンがあってもいい。
12	FAX	町内	60代	住民	現在、人口減少にもかかわらず安全に町を維持していると考えます。 なので、5期の計画の延長方向で良いと思います。

No.	回答方法	住所	年代	区分	<p style="text-align: center;">第6期奥多摩町長期総合計画に関するご意見 ※ご意見の内容については原文のまま掲載しています。 ※氏名等の個人情報についてはマスクングしています。</p>
13	フォーム	町内	30代	住民	<p>すでに提出した意見に項目を追加しましたので、差し替えてください。以前提出した意見の受付番号は「YA00000846」です。// 以下差し替え文章</p> <p>第6期奥多摩町長期総合計画に対する意見 目次 国際交流 情報 教育と移住</p> <p>1. 国際交流 前提: 日本の国際的な地位の変化に伴い、さらなる国際化が求められています。経済発展の観点から、輸出を視野に入れた事業の推進や、観光立国としての外国人観光客の増加が望まれます。これを実現する基盤となるのが、国際交流事業です。</p> <p>1-1) 中国淳安県との交流 奥多摩町は中国淳安県と友好都市条約を結んでいますが、現在まで具体的な交流事業はありません。学生や町民を対象にした交流ツアーや、淳安県の住民を奥多摩町に招き、文化交流を行うことは可能でしょうか。1-2) 海外からのホームステイ受け入れ 中国淳安県やオーストラリアなどからのホームステイ生を受け入れることを検討してはどうでしょうか。町にはすでに英語教室と中国語教室があり、これらと連携して交流を深めることが可能です。文化理解や語学力の向上はもちろん、インバウンド対応人材の育成にも繋がり、参加者が奥多摩町の長期的なファンになることが期待できます。1-3) ネパールとの友好都市提携 最近、ネパールからの実習生が増え、観光で訪れるネパール人も多くなっています。奥多摩町と地形が似たネパールとの友好都市提携を結ぶことで、文化の相互理解を深め、労働者不足とオーバーツーリズムの問題に対する解決策を模索します。</p> <p>2. 情報（町からの情報発信の効率化） 前提: 人口減少と町職員の数の減少が予想される中、ICTを活用した効果的な情報発信の重要性が高まっています。</p> <p>2-1) 広報の配布方法の改善 現在、地区の組長が直接各家庭に広報物を配布していますが、これは大きな負担になっています。郵送や電子配信への切り替えを検討することは可能でしょうか。電子配信を希望する町民には、メールや専用アプリを通じて情報を提供することが、印刷費と郵送費の削減にも繋がります。2-2) 町内放送のデジタル化 町内放送を聞き逃すことが多いという問題があります。放送内容を町のホームページで文字情報としても公開し、聞き逃した人や聴覚に障害のある人も情報を得られるようにすることを提案します。AI音声を活用することで、原稿を即時に音声化し、コスト削減と利便性の向上が期待できます。2-3) 議会のデジタル化 議会の様子をインターネットで配信することで、町民の政治参加を促進し、議会運営の透明性を高めることができます。また、AIを活用した議事録の自動文字起こしを導入することで、コスト削減と情報公開の拡大を図ることが可能です。2-4) コンビニでの住民票、印鑑証明印刷サービス マイナンバーカードを利用して、コンビニに設置されたプリンターから住民票や印鑑証明を印刷できるサービスの導入を提案します。この制度はすでに多くの東京の市町村で利用されており、利便性の向上と行政サービスの効率化に寄与します。2-5) スマートストア（無人店）の設置 町内にスマートストアをいくつか配置することを提案します。これらの無人店では、日用品のほかに、前述のプリンターを配置し町内各所で住民票等の書類が出力できるようにします。これにより僻地に住む町民も庁舎に行かなくて済むようになります。参考として、小菅村にオープンしたスマートストアの取り組みがあります。</p> <p>3. 教育と移住 前提: 魅力的な学習環境を提供することは、子育て世代の移住促進に直結し、地域の人口減少問題に対する一つの解決策となり得ます。</p> <p>3-1) 魅力的な保育園の誘致 奥多摩町の豊かな自然を生かした保育園の存在は、子育てを考える家庭にとって大きな魅力です。地方には自然豊かな場所が多いため、特に教育プログラムの充実を図ることで、他との差別化をはかりたいと考えています。例えば、檜原村の「やまっこかわっこ」(https://yamakkokawakko.wixsite.com/yamakkokawakko)のように、自然環境を活用した教育を行う保育園を誘致することは、有効な移住促進策になると考えられます。3-2) 私立中学校、高校、大学の誘致 教育機関の誘致は、町に新しい活力をもたらし、さらには地域経済の活性化にも寄与します。町内に存在しない専門学校や大学などの高等教育機関を誘致することで、これまでにない層の人々を奥多摩町に引き寄せることができます。特に、自然や観光を学ぶ独自のプログラムを提供する学校があれば、学生たちが地域に新たな魅力を見出すきっかけとなります。例えば、「神山まるごと高専」(https://kamiyama.ac.jp/)のように、地域全体を学びの場とするアプローチは参考になります。3-3) 保育園留学制度の導入 短期間でも保育園に子どもを預けることができる「保育園留学」は、移住を検討している家族にとって魅力的な選択肢です。実際に生活してみることで、町の魅力を実感し、移住への一歩を踏み出すきっかけになり得ます。青梅市の保育園留学(https://hoikuen-ryugaku.com/tokyo/ome)は、この制度を上手く活用している例です。3-4) 図書館のリニューアル 奥多摩町の図書館は充実していますが、利用者数が少ないという課題があります。特に、学生や社会人の利用が少ないことから、図書館をもっと魅力的な学習スペースとしてリニューアルすることが求められています。市民が参加するワークショップを通じて、リニューアル案を検討し、図書館を地域の学びの中心地として再活性化させることを提案します。参考として、瑞穂町図書館の取り組み(https://project.nikkeibp.co.jp/hitomachi/atcl/study/00129/)があります。</p>

No.	回答方法	住所	年代	区分	<p style="text-align: center;">第6期奥多摩町長期総合計画に関するご意見 ※ご意見の内容については原文のまま掲載しています。 ※氏名等の個人情報についてはマスキングしています。</p>
14	フォーム	町内	50代	住民	<p>今後の高齢化、人口減などの現状を踏まえ、「第6期奥多摩町長期総合計画」の策定で検討していただきたい以下の3点について、意見を述べたいと思います。</p> <p>1. 多文化共生社会へ向けての取り組み 2. 行政のDX化 3. 特徴のある教育</p> <p>多文化共生社会へ向けての取り組み 現在、奥多摩町には、技能実習、特定技能の在留資格を持つ多くの外国人が住んでおり、その多くが町内福祉施設で働いています。奥多摩町は、高齢化が進み、生産年齢人口が減り続けています。町の将来的な人口構成を考えると、今後、外国人介護人材が貴重な働き手として、福祉分野を支えることになると思います。介護人材については、全国的に見ても、2040年までに69万人が不足すると試算されており、人材確保が大きな課題となっています。これは、介護分野に限ったことではありません。人手不足が深刻化する中、2024年3月15日には「育成就労制度」の法案が閣議決定され、国は積極的な外国人材の確保に舵を切りました。人手不足を補うために、今後ますます外国人移住者が増えていくことが予想されます。全国的に人材が不足している状況で、なんの施策もないまま、外国人材を確保するのはかなり難しいのではないかと考えています。総務省では、2020年に「地域における多文化共生推進プラン」を改訂していますが、このプランでは「市区町村の役割」として、市区町村は、地域の実情に応じて、多文化共生の推進に関する指針・計画を策定した上で、外国人住民の最も身近な行政機関として、必要な施策を着実に推進する。その際、積極的に、他の地方公共団体における多文化共生の取組に関する先進的な知見やノウハウの活用を図る。という方針が挙げられています。現在、奥多摩町には、外国籍住民に対応する特定の窓口がありません。多文化共生の推進に関係する部署もありません。町内には、国際交流協会のような団体もないため、実質、外国籍住民のサポートは、受け入れ企業や各家庭が担っています。町から発信される情報は、「広報おくたま」や回覧板のような紙媒体のものが多く、日本語を母語としない外国人にとって、理解が難しいものとなっています。防災無線による情報発信も、外国人にとっては理解のハードルが高く、緊急時には、十分に情報の伝達が行われない可能性があります。町のホームページも、英語、中国語、韓国語、ドイツ語、フランス語、スペイン語に留まり、実際に在住しているインドネシアやベトナム、ミャンマー、ネパール等の住民に対応しているものとは言えません。また、PDFで公開されている情報は、他言語に翻訳することができません。「やさしい日本語」等の外国人に配慮した発信もありません。町内で日本語を学べる場所もなく、住民との交流の機会も限られています。今後、町内に長期的に在住する外国人が増えた場合、日本語支援が必要な児童・生徒が増える可能性もありますが、そのような外国人児童生徒に対する日本語支援の体制も整っていません。奥多摩町で働く技能実習生や特定技能外国人も日本人同様、住民税や健康保険、年金も支払っていますが、東京都で発行している冊子を窓口で渡すだけでは、十分な対応とは言えないと思います。また、町に在住する外国人だけでなく、インバウンド関連事業も広がりを見せています。町を訪れる外国人観光客も増えていきますし、多国籍化も進んでいます。奥多摩町に暮らす外国人だけでなく、関係人口としての外国人を考えると、日本人よりもむしろ、外国人をどのように受け入れていくのか、どのように共生社会を実現していくのかを考える必要があるのではないのでしょうか。第5期長期総合計画には、「多文化共生」「外国人」というキーワードは一切ありませんでした。未来を見据え、多様化する地域社会をどのように形作っていくのか、計画の見直しを図っていただきたいです。</p> <p>行政のDX化 全国的に働き手が不足する中、人材確保は大きな課題です。これからのますます生産年齢人口が減っていくことを考えると、業務の効率化が欠かせません。しかし、現在の役場の業務は、非効率と言わざるを得ません。徹底的なDX化を実現して、人件費の削減を図ってほしいと考えています。また、奥多摩に移住してくる人は、奥多摩町外で仕事を持っている人が多いのではないかと思います。物理的な長時間の移動がなくても、町外の事業者とのやりとりはほぼネット上で完結するという状況があるからこそ、奥多摩にいながらにして働くことができます。このような働き方が常態化している移住者にとって、町内での手続きの煩雑さは、移住のモチベーションを下げるものとなります。移住者を増やそうというのであれば、以下に挙げるような業務のDX化は欠かせないと思います。- マイナンバーの活用（町外コンビニでの住民票等の発行、給付金等の支払い手続きの簡素化など）- 情報のデジタル化（回覧板、防災無線、紙媒体による配布物のデジタル化）- ネットでの各種申し込み- 税金、公金等のインターネットバンキングによる振込 情報のデジタル化は、日本語支援を必要とする外国人にとっても、非常に有効な手段となります。さらに、奥多摩町の地形上の特徴を考えると、モビリティ分野のDX化も欠かせないと思います。例えば、移動図書館や移動スーパーがすでに実現されていますが、移動式の行政窓口や遠隔診療システム、ライドシェアやドローンによる運送など、他の行政ですでに実現しているものもたくさんあります。このような攻めのデジタル化についても、長期計画では検討していただきたいです。</p> <p>特徴のある教育 奥多摩町では、子どもの数が減り、学校の統廃合が行われてきました。今後も、子どもの数が減ることにより、学校のあり方も検討されることになると思います。現状に合わせて学校のあり方を変えていくのではなく、どのような教育を目指していくのかを計画に盛り込み、戦略的に教育のあり方を検討していくことも必要ではないかと思います。現在奥多摩町内の小学校では、一クラス10人前後の少人数教育が実現されています。都心の一クラス30人という教育環境に比べたら、非常に恵まれた環境にあると思います。このような教育環境を生かして、教育を中心としたまちづくりを行うことも可能です。例えば、本巣市にある根尾学園は、中学校、小学校合わせて30人ほどの僻地にある学校ですが、異学年が一緒に学ぶという取り組みをして、大きな実績を上げ、全国から注目されています。この例のように、奥多摩ならではの教育のあり方を町として打ち出していくことも可能ではないかと思います。また、高校についても、今はN高校など、通信制も学校も増えています。このような通信制の学校をうまく活用して、奥多摩ならではの学校教育を行うことも可能ではないかと思います。第5長計のまとめでは、「生涯学習」が中心に書かれていましたが、子どもがど真ん中の「教育」を検討していただきたいです。</p>

No.	回答方法	住所	年代	区分	第6期奥多摩町長期総合計画に関するご意見 ※ご意見の内容については原文のまま掲載しています。 ※氏名等の個人情報についてはマスキングしています。
15	持参	町内	70代	住民	<p>1.20年後の奥多摩町を想定した計画にしていきたい。私は、人口2,500人の町づくりを今回の長計から考えることが必要と考えます。</p> <p>2.現在ある町有地のあらい直しが必要だと思います。全ての町有地の現状と課題を整理して、具体的な活用計画を作る（創る）べきだと思います。</p> <p>3.旧古里中の跡地利用を再構築すべきだと思います。図書館・公園を中心にして、交流カフェ、起業スペース、民間交流の場、地域おこし協力隊の拠点、関係人口関連施設、学習塾等利用は沢山あると思います。</p> <p>4.空家・休耕地対策とリンクさせた中高年移住対策を、計画に、具体的に盛りこむ必要があると思います。</p> <p>以上</p>
16	持参	町内	50代	住民	<p>福祉についてです。高齢者対策は色々工夫されていて素晴らしいと思いますが障害者児について支援が少し手薄な印象があり、これからうまれてくる障害児や引越しを検討している障害者が安心してくらすような生活環境、相談できる窓口があるとよいと思います。特にヘルパー派遣制度の充実と公共施設から駅までの点字ブロック設置、信号の音声化を望みます。</p>
17	フォーム	町内	50代	住民	<p>●観光立町をもっと本気で推し進める！ クラフトビールのパテレや、沿線まるごと株式会社など、有望な民間企業が入ってきてくれている今だからこと、町としてもさらに力を入れて欲しいです。 駐車場不足、外国人観光客の受け入れ態勢の強化、町としての観光立町宣言のアピールやイメージアップ広報、冬場の観光コンテンツの模索、観光客のマナーアップ対策など。 現状は飲食店や宿泊業者が個々で頑張っているの、個々では対処できない大きな括りのサポートを特に期待しています。 情報発信がしやすい現在、世界に向けて奥多摩町をアピールし、多くの観光客を受け入れる態勢を早急に整えることができるように行政、民間共に頑張っていけたら良いと思います。</p> <p>●奥多摩愛の強い定住者を増やす！ 奥多摩町を気に入って、住みたいと家を探している人はたくさん居ます。上記の「観光まちづくり」で町の魅力が発信されると、町で起業したい人など自分で仕事を持ち込める・作れる移住希望者が増えると思うので、それを受け入れることができれば、相乗効果で定住人口も関係人口もさらに増えるのではないのでしょうか。 第5期では若者住宅で子育て世代を積極的に受け入れてきましたが、子育て支援期間が終わると町外に引っ越してしまう人も多いと聞くので、若者住宅支援とは別に、本当に奥多摩を気に入って住んでくれるならば、世代を問わず、子どもがいるいないに関わらず呼び込めるシステムがあっても良いと思います。</p> <p>●クリエイティブなまちづくり！ 町営せせらぎの里美術館が改修され、展示内容も他に引けを取らないほど質が上がっています。奥多摩町には物づくりや創作活動などアートに関わる人たちも多くいます。素晴らしい郷土芸能も伝承していかなければいけません。新庁舎の建設にもデザイン性がとても重要になってきますし、観光地として景観を良くすることも必要です。上記2点とは違いふんわりした目標ではありますが、創造性豊かな美しい町になっていったら嬉しいです。</p>